

廃棄物の削減と ゼロエミッションの取り組み

生産活動における廃棄物の発生抑制に努め、環境負荷の低減につなげています。

【 2013年度の目標 】

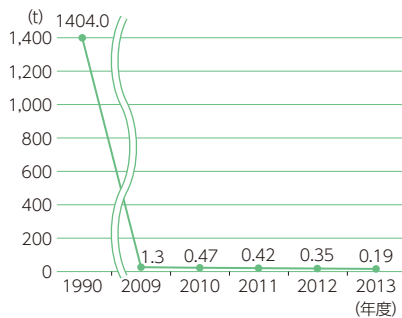
全社RC目標としては終了し、
恒常業務として維持監視する

2013年度の取り組み

2010年度に策定された「2020年度を到達点とする環境目標」に基づき、全社において廃棄物の削減活動を展開しています。2013年度は、廃棄物発生量の削減取り組みの結果、2012年度に0.35tあった廃棄物の最終埋め立て量を、0.20tにまで削減することができました。

本社では、処理方法の見直しを行い、廃棄物を再資源化できるようにしました。

■ 最終埋め立て量の推移



廃棄物ゼロエミッションの維持・向上

ゼロエミッションの維持については、サーマルリサイクル*1からマテリアルリサイクル*2への転換、有価物としての売却など、質的向上をさらに推進していきます。

2013年度もこれまで有価物化できなかったもの（廃缶、廃プラスチック、廃油など）の有価物化を引き続き実施しました。廃棄物を再資源化する取り組みも進んでおり、ゼロエミッション活動の質的向上が進展しています。

※1 サーマルリサイクル: 廃棄物を単に焼却処理せず、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用すること。

※2 マテリアルリサイクル: 廃棄物を利用しやすいよう処理し、新しい製品の材料として使用すること。

2013年度各サイトの取り組み

廃棄物の最終処分量ゼロを目指すために、各サイトにおける質的向上活動だけでなく、廃棄物自体の発生量を削減する活動など、各サイトで以下のような独自の取り組みを行っています。

① 栃木

- 排水処理工程の改善(薬剤注入量の調整や脱水工程の見直し)により、汚泥発生量を大幅に削減した

② 東京

- 廃缶を有価物処理できるようにした
- 廃サンプルの処理について、処理工数を削減した

③ 愛知

- ドラムドライヤー設備による、廃水の社内処理化推進
- 品種統合や工程改善による廃棄物発生量の削減
- 分別回収の徹底

④ 大阪

- 廃プラスチックの分別により、再資源化比率を高めた

⑤ 岡山

- 廃ポリ容器を有価物化
- 廃油(廃塗料、廃ワニス)を有価物化
- 部会活動で取り組みを強化し、発生量、処理費を削減

⑥ 本社

- 廃棄物の再資源化により、埋立処分量を削減